

環境コミュニケーションのすすめ ～環境報告書の作成について～

環境コミュニケーションとは

「環境コミュニケーション」とは、一般的には、事業者、住民、行政等の関係者の間で、環境に関する情報について共有や対話を行うこととされています。

地域の方の中には、事業所・工場の中で何が行われているのかが分からず不安を感じている方もいるかもしれません。万が一、事業所・工場で事故などが発生してその影響が住民にも及ぶようなことがあった場合、建設的な話し合いや有効な対策の推進が困難となったり遅れたりすることになりかねません。地域の方と良好なパートナーシップを確立していくことは大変重要です。

- ・近所の工場から出る煙が気になるけど何が含まれているんだろう？
- ・どんな化学物質を扱っているんだろう？
- ・環境対策や防災対策は大丈夫なんだろうか？
- ・こうした情報は公表していないんだろうか？



地域住民等

化学物質など
に対する不安



事業者

不安解消のための
情報提供

環境コミュニケーションが必要なのは理解しているけど、何から始めればよいのかな。

環境コミュニケーションの取組方法

- 環境報告書の作成・ホームページへの掲載
- 日常的なコミュニケーション

実践例

- 地域の清掃活動への協力
- お祭りなどのイベントへの協賛
- 工場見学会や環境学習の開催

- 地域住民との対話
- 従業員への環境研修

環境報告書は、事業所や工場の環境活動をまとめたものであるため、情報発信の基本となります。本リーフレットでは、環境報告書についてご紹介します。

ホームページ
への掲載

〇〇会社
環境への取組

冊子の配布



環境コミュニケーションが生み出すメリット

企業イメージの向上！

環境に配慮した事業活動の内容を地域住民にお知らせすることは、持続可能な事業活動を行っている会社であることをPRするチャンスとなります。

トラブルの未然防止！

日常的に地域とのコミュニケーションを行うことで、トラブルを未然に防いだり、事態が悪化する前に解決したりすることができます。

従業員の環境意識の向上！

環境関係法令の遵守状況や法改正の有無をチェックするなど、環境対策の取組状況等を見直す良い機会になるとともに、従業員の環境意識が向上し、地域の一員として、よりよい環境を整えようという思いを地域住民に伝えることができます。

環境報告書の作成について

環境報告書とは

環境報告書とは、事業者が、自らの事業活動によって生じる環境負荷や、環境に対する考え方、取組等をステークホルダー（利害関係者）などに対して定期的に公表するものです。

事業所・工場周辺の地域住民の方などにとっては、地域で身近に立地する事業所・工場において、大気汚染対策、水質汚濁防止、土壌汚染対策などの環境保全にどのように取り組んでいるのかは重大な関心事です。**環境コミュニケーションは必要であるものの、実施は難しいと考えていた事業者の方も、まずは環境報告書の作成から始めてみてはいかがでしょうか。そこから、徐々に環境コミュニケーションの範囲を広げていきましょう。**

作成のポイント

まず、作成してみることが重要

最初から、完璧なものを作る必要はありません。他事業所・工場のものなどを参考に段階的に対象組織や分野を拡大し、内容を充実させましょう。

自らの事業所・工場の特色を適切に表すことを心がける

企 画

地域住民の方などが何を知りたがっているのかを考えて、事業所・工場がどのような事業活動を行っているのか、その事業の特性に応じた環境保全の取組をどのように行っているのかを具体的に記載しましょう。

作 成

伝えたい内容を簡潔にまとめ、データは、図・表・グラフ等を用いて視覚的に分かりやすく記述すると効果的です。

作成・活用の手順

1 企 画

環境報告書の目的を考え、対象者を整理します。対象者の背景知識等に応じて、伝える内容を考えます。



2 作成・公表

記載内容等を検討し、必要な情報の把握・収集・整理を行い、環境報告書を作成します。公表の方法として、ホームページへの掲載、冊子の配布など多様な周知方法を検討します。



3 対 話

環境報告書を活用して、地域住民等とコミュニケーションを行います。対話集会等を行えば、お互いの理解が深まり、信頼関係を構築することができます。



4 改 善

環境報告書を作成する過程や地域住民等とのコミュニケーションにより得られた意見・感想を踏まえ、課題を整理し、新たな環境報告書を作成します。



基本的な記載項目

次ページ「環境報告書の記載イメージ」に基本的な記載項目を示しています。

環境報告書の記載イメージ

〇〇製造株式会社岡山事業所 環境報告書

事業所長からのメッセージ

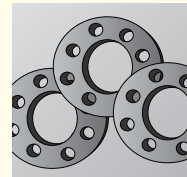
当社岡山事業所は、岡山県〇〇市に位置し、〇〇製品を製造しております。事業活動に当たっては、生産ラインの省エネ化や化学物質の排出削減に取り組んでいます。



事業所長 〇〇〇〇

会社概要

〇〇製造株式会社 岡山事業所
所在地：岡山県〇〇市〇〇
設立年月日：1982年7月13日
資本金：5000万円 従業員200人



業務内容

自動車内装部品、ガスケット・シール材等の開発、製造を行っています。

環境に対する取組方針

- ・環境に配慮した小型・省エネルギーな製品の提供を通じ持続可能な社会の実現に貢献します。
- ・生産活動による周辺の環境への影響を最小限にすることを目指します。
- ・地域社会との連携を図り、情報開示とコミュニケーションに取り組みます。

2023年度環境目標及び達成状況

■地球温暖化対策

目標：CO₂排出量を2022年度比で5%削減

達成状況：CO₂排出量を2022年度比で5%削減しました。

■地域貢献活動の実践

目標：年6回以上の活動実施・参画

達成状況：地域の方への説明会の実施、取引先との勉強会の開催、地域の環境保全活動へ参加しました。実績数10件。

■化学物質の排出量の削減

目標：排出量を2022年度比で5%削減

達成状況：排出量を2022年度比で5%削減しました。

環境管理体制

環境管理体制

環境マネジメントシステムとして、〇〇年にISO14001を取得しています。

環境経営責任者（社長）

環境推進委員会

事業所長

各部門

環境負荷の全体像

投入（インプット）

電力	〇〇千 kWh (一般家庭〇〇軒分)
都市ガス	〇 km ³
工業用水	〇 km ³
上水道	〇 km ³
物資	原料 〇 t 包装用資材 〇 t



排出（アウトプット）

CO ₂	〇 t (CO ₂ 換算)
排水	〇 km ³
廃棄物	〇 t
	再資源化量 〇 t
	最終処分量 〇 t

◇省エネ型装置を導入し、電気使用量の削減に取り組んでいます。

◇廃棄物の減量のため、特に廃プラスチックのリサイクルを進めています。

大気汚染対策

当事業所、〇〇製造工程の〇〇施設は法に基づく排ガス測定を行っておりますが、基準値の超過はありませんでした。

対象物質	単位	大気汚染防止法 基準値	実測値 (最大)	測定日
SO _x (硫黄酸化物)	Nm ³ /h	〇〇	〇〇	令和〇年〇月〇日
NO _x (窒素酸化物)	PPM	〇〇	〇〇	令和〇年〇月〇日
ばいじん	g/Nm ³	〇〇	〇〇	令和〇年〇月〇日



〇〇施設

水質汚濁対策

当事業所、〇〇製造工程の〇〇施設については、排水処理後、法に基づく排水の測定を行っておりますが、基準値の超過はありませんでした。

対象物質	水質汚濁防止法 基準値	自主管理 基準値	実測値 (最大)	測定日
水素イオン濃度 (pH)	〇〇～〇〇	〇〇	〇〇	令和〇年〇月〇日
生物化学的酸素要求量 (BOD)	〇〇	〇〇	〇〇	令和〇年〇月〇日
化学的酸素要求量 (COD)	〇〇	〇〇	〇〇	令和〇年〇月〇日
浮遊物質 (SS)	〇〇	〇〇	〇〇	令和〇年〇月〇日
窒素含有量	〇〇	〇〇	〇〇	令和〇年〇月〇日
りん含有量	〇〇	〇〇	〇〇	令和〇年〇月〇日



〇〇施設

土壌・地下水の汚染状況

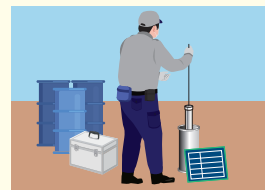
■土壌調査

2023年度は〇〇建屋解体工事に伴う跡地の自主的な土壌調査を実施しました。その結果、土壌汚染対策法の基準値の超過はありませんでした。

■地下水の状況

当事業所では過去の事業による土壌・地下水汚染が判明しており、年に〇回地下水を測定しています。2023年度は地下水の環境基準値の超過はありませんでした。

対象物質	単位	基準値	実測値 (最大)	測定日
トリクロロエチレン	mg/L	0.01以下	〇〇	令和〇年〇月〇日
クロロエチレン	mg/L	0.002以下	〇〇	令和〇年〇月〇日
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	0.1以下	〇〇	令和〇年〇月〇日
1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.04以下	〇〇	令和〇年〇月〇日



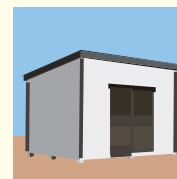
調査時の様子

化学物質の管理状況

化学物質の排出量を把握し、PRTR法に基づき届出を行っています。

薬液・廃液は、専用の保管庫で管理しています。

物質名	用途	取扱量	排出量			保管量		移動量	
			大気	水域	土壌	平均量	最大量	廃棄物	下水
物質A	溶剤	〇〇	〇〇	—	—	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
物質B	合成原料	〇〇	—	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇	〇〇
・・・									



保管施設

環境に関する取組

■省エネ活動によるCO₂の削減

事業所屋上に、太陽光発電設備(〇〇kw)を導入しました。また、事業の効率化や、オフィス活動における空調の設定温度の見直し、事務所照明のLED化や休憩時間中の消灯等の省エネ活動を実施し、CO₂の削減に努めました。〇月に、地域の方々に、当社の事業や環境に関する取組についてご説明し、日頃感じた疑問についてお答えしました。

■環境対話集会

住民の方から「事業所の門が開く前にトラックが来てずっとエンジンをかけっぱなしにしている」とのご指摘をいただいたので、早く門を開けて中で待機できるようにしました。今後も引き続き環境対話集会を開催し、ご意見をお伺いしたいと思います。

危機管理に関する取組

■緊急事態対応訓練

万が一、事故が発生した場合でも適切に対応できるよう、異常事態対応訓練を実施しています。昨年は、地震により、屋外の〇〇タンクから漏洩が発生し外部に流出した場合を想定し、地元住民の方と連携して訓練を行いました。



令和5年度岡山事業所
緊急時対応訓練の様子

※記載イメージとして簡易的なものを示しておりますので、事業所・工場の事業の特性に応じた項目となるようにし、より詳細な内容を記載するようにしてください。

※地域の方が知りたいと思う情報（環境対策に関する測定結果、化学物質の管理情報など）を図、表、グラフ、写真などを用いて分かりやすく記述すると効果的です。

参考マニュアル等

環境省：環境報告ガイドライン <https://www.env.go.jp/policy/2018.html>

環境省：環境報告書の記載事項等の手引き <https://www.env.go.jp/press/18201.html>

川崎市：環境サイトレポート作成の手引き <https://www.city.kawasaki.jp/kurashi/category/29-1-3-2-8-0-0-0-0-0.html>

埼玉県：環境コミュニケーション活動ガイドブック <https://www.pref.saitama.lg.jp/a0504/kankomi/guide.html>



©岡山県「ももっち」「うらっち」

できる
ことから
活動を！

環境コミュニケーションについて（岡山県HP）
<https://www.pref.okayama.jp/page/767118.html>

岡山県環境文化部環境管理課化学物質対策班
TEL：086-226-7305

